

「待たせる男」作／久世孝臣

出演／久世孝臣

荒木山の方から、ゆらゆらと階段を降りてきた、力
ない男が、恐ろしいほどのゆるゆるとした笑顔で話
し出す。

「今日が最高の日なんかもしれへんと思うわ。」

今日が本当の人生の始まりで、生まれ変わったみた
いで。

でも昨日も思ってたな。一昨日も思ってたな。

最近毎日思ってる。

今日が人生で最高の日なんかもしれへんと思うねん。

毎日そう思うねん。

ああ。今日も最高の日やったって、
一日の終わりに今日を思い出して、
毎回ニヤニヤ笑うような感じだね。

朝起きてから夜寝るまで、
楽しいこととかちよつと悲しいこととか
大変なことも含めて

神様が素敵にバランスをデザインしてくれて、
生きるって楽しいなあと結局思ってしまうように
つくってくれたんやと思うような一日。

だって、お前と一緒に居られてるしな。
俺、それと詩を描いてられたらそれだけでいいしな。

あれ？今日は昨日よりもいい気がする。
いや、昨日の方がいい日やったか？
どっちも最高っていうのはあかんのかな。
どっちにもお前居たし。

最高っていうのは何日あってもいいやんね。

起きて、仕事して、寝て、
特に何かを成したわけじゃないけど、
お前はずっと俺を見てくれて。

今日がね、今みたいな日がね。
こうやって毎日続くことがね、

嬉しくて嬉しくてね、
毎日最高なんです。

明日もずっと最高かもしれへん。
明後日もっと最高かもしれへん。
来年なんて、もう、全然違う人間になってるんかも
しれんよ。そう思うと嬉しくて仕方ない。

お前といるとどんどん変わっていく自分がある。
色んな自分を知れて、最高に楽しい。
でもどうしようかな。
ある日いきなり、
最高の日って思わへん日が来たら。

来年なんて、もう全然違う人間になってるかもしれ
へん。

その自分がお前とまだ最高の日をやってられんな。

また最高やな！って思う日が来ることを願って辛い毎日が続くこともあるかもしれへん。
そんな耐えられるかな？

考えすぎなんかな。
なんか終わりが近づいてきてるみたいな気がすんねん。
終わりなんかないのかもしれないけど、なんかね。変わり続けながら最高の日を過ごしていく可能性もたくさんあるんやけどね。怖がってるだけなんやろね。

いつからやつけ。
お前以外の全部が人生から無くなってもいいと思っ
て生きるようになったの。

昨日も、一昨日も、その前もずっと最高。
思い出すと最高の日ばかり。
全部のことを覚えてられないのが
くやしいと思ってる今日が一番最高の日！

でもまだまだ最高の日がある気もする。
愛してるってなんなんかな。
時々それが怖くて、でも怖いから好きで、
それが愛してるな気もする

今死んでも何の後悔もないわ。
この気持ちが薄れていくことに比べたら
死ぬことなんてなんでもないわ。
でも、悲しいよね。
自分のキラキラの為だけに、
勝手に死ぬのは悲しいよね。

俺はでも今のこの気持ちの俺が好きや。

あの日ね。
服がむっっちゃ似合ってたのよ。
ほんまに服がよく似合ってたのよ。
びっくりするくらい。
ほんまに似合ってた。
今までないくらい。
晴れててね。

途中で曇ったし、雨も降ったけど、そのあとまた
物凄く晴れてね。虹も出て、夕焼けもきれいでね

一日の中で天気が随分変わったんやけどね。
その景色全部、光全部、お前にびったりでね。
こんなにきれいな人っているんやな。こんな素敵な
ことってあるんやなって思ったよ。

その時しゃべってた言葉は何も覚えてない。
ああ、完璧ってこういうことやな。
って気分の中に言葉は溶けた。お前と風景と光以外
消えてしまった。

最高の日は何度もあるかもしれんけど、
完璧な日っていうのは多分、二度と来ない。

あとは下り坂だけ。

完璧やったな。

目をつむらんくても完全に覚えてる。

その目を何度も繰り返し返して思い出して生きてる。

どんな服着て、どんな風が吹いてどんなふうに変化して、どんな雰囲気でお前が話したのか。

俺はお前が動いて生きてるだけで感動できるねん。

明日も明後日もずっと。死ぬまで、お前が生きてることだけで感動できる。

こんなに幸せなことってあるんやな。

だから怖いんです。終わりにしたくなっただんです。

毎日こんな日が続くかわからへんのですから。

続かないんですから。続けるために終わらせないために終わりにしたんです。

人生って完璧な瞬間を味わったらもう要らんと違うかなあ？

「もっといいものがあるかもしれない」のためだけにこの記憶を薄める必要はない気がするなあ。

この世とかあの世とかに対する考え方をちよっと変えてみたらそんなに死ぬのが怖くなくなったのよ。俺は完璧で最高の瞬間を感じた。

だからもうおしまい。ここでおしまい。

でもこれは俺のエゴなんかな。

毎日ね、今日はお前の役に立てるかな、今日は詩でお腹いっぱいになるかな。ほとんどお金ないけど、言葉でちよつとは寒さがしのげるかなー。

って思ってる。俺がいることでお前の生きてる時間が少しでも面白くなればいい。

それがな、今日できた気がしてん。俺はもうお前やなーって思ってる。

だから、お前の生きてる時間の中に俺もいて、だからもう俺はお前の役に立ち続けられんのやなーって思った。

これ以上最高の日が来なかつたらどうしよう、この日が最高って気持ちを忘れたらどうしよう。

何回も言ったよね愛してるって。

そのたびに、嬉しそうな顔したり、また？って顔したり。

だって、それしか言葉知らんねんもん。

だからな、今日いなくなることも許してくれへんもんかなあと思う

死ぬ前に最後に残ったのがあってとうって気持ちと今日も一緒にいてくれたねーって気持ちやった。

お前が隣で寝てて、そこで詩を描くのが好きやったな。

ほら、死ぬにはいい日じゃない？

雨が降ってて（もしくは晴れてて）身体の中が自分とお前のことでもいいで。

今日もお前の事ばかり考える、昨日また喧嘩したこととか。

だから、最高の日って言ってもいいことばかりじゃないのよ。

でもあいつのことで身体を全部いっぱい出来る。その中で完璧な日を過ごせた。だから、死ぬねん。

この全部の感情が薄まらないで、全部の思いをわすれないときに死ぬねん……

私が死ぬのを決めた日。ばいばい。」

そういうとまたゆるゆると階段を登り荒木山に向かった。

終わり